

授業改善書

科目名	スポーツマーケティング論
担当者	薄井和夫

授業の概要

本講義では、全てのコマでパワーポイントを使用し、適宜、動画などを組み込んで、学生に対するわかりやすさを心がけた。

内容としては、マーケティングの基礎知識を確認しつつ、マーケティングおよびビジネスの視点から、スポーツをどのように捉え、考えるべきかについて講義した。第1部でマーケティングの基本概念とスポーツとの関係を、第2部では「観る」スポーツのマーケティングを、第3部では「する」スポーツのマーケティングを具体的に検討した。

オリンピックや FIFA ワールドカップの仕組み、北米・欧州・日本でのリーグ戦の違い、「する」スポーツの流行史、フィットネスクラブ経営とその多様性、ナイキやアシックスなどスポーツ用品企業のマーケティング、「スポーツ・フォー・オール」の理念と自治体による非営利マーケティングの役割などを具体的に教授した。

授業の問題点

「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」、「質問や発言をしましたか」という項目は、双方とも 4.08 で、他の項目に比して高くはない。授業の中で、教師の問いに対して、学生から即答が出るようになり、この点では昨年度より改善されたというのが教師の実感ではあるが、教師と学生との双方向コミュニケーションについてなお心がかたい。

学生の授業満足度

「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の項目は 4.63 と良好である。授業におけるパワーポイントの使用や動画の活用などが評価されたものと思われる。

また、「教師の説明はわかりやすかったですか」も 4.71 で高評価であり、教師の説明の仕方などが良かったものと思われる。

授業改善の課題と方策

学生と双方のやりとりができるように、教授の内容項目を伝達することのみを急がず、常に学生に問いかけながら授業を進めるよう心がける。

また、授業以外の予習復習がきちんと行うことができるようすることも、なお改善を心がけたい。

その他

新年度はいよいよ「東京 2020」の本番を迎える。こうしたタイムリーな話題を適宜組み入れ、学生の関心を喚起するようにしたい。

また、eスポーツが世界的な話題になっている中、ゲームがなぜ「スポーツ」なのかを学生に考えさせることを通じて、自ら疑問を抱いたり、自分で答えを模索したりするプロセスを体験させ、自ら考えることの大切さが理解できるようにしたい。